

平成 25 年 12 月 26 日

広島大学理事・副学長（教育担当） 坂越 正樹 殿
広島大学附属学校園長 各位

広島大学附属学校評価委員会

平成 25 年度附属学校園の評価に関わる総括提言

当委員会は、一昨年度・昨年度に続き、本年 7 月から 8 回の会合を持った。各附属学校園が昨年度の評価（総括提言・講評）にもとづき、附属学校園としての使命の遂行に努めて、教育と研究を進展させているかどうか、経営・管理と財務に関する経費の配分執行を適切に進めるべくどのような節減の努力がなされているのか、という観点に立って、各学校園を訪問した。各学校園から、昨年度来の改善・改革点、その経過と結果、財務状況の報告を受けるとともに、新採用教員からの意見を聴取し、別紙のように各学校園への報告書を提示した。

本総括提言は、学校運営・経営、学校づくり・カリキュラム、教育研究及び人事、施設・設備、保護者・地域社会との関係、財務状況、また上級学校、広島大学の各学部・研究科との関係などの項目に関して、各学校園、大学本部及び附属学校支援グループ、各学部・研究科へのさらなる改善点と要望をとりまとめたものである。

I 各学校園の改善状況（総括）

各学校園とも、昨年度から今年度にかけて、学校運営・経営、学校づくり・カリキュラム、教育研究、保護者・地域社会との関係、財務状況、また上級学校、広島大学の各学部・研究科との関係などに関して、さらなる改善が認められる。

とくに、

- 1) 各学校園とも、改善策の必要・実行の意識の高揚が見られた。
- 2) 各学校園とも教育体制づくりに積極的に取り組んでいる、あるいは取り組もうとしている。
- 3) 各学校園とも研究開発校等に応募・申請し、多数の学校において採択された。
- 4) 各学校園とも学校関係者評価、保護者などのアンケート（データ、エビデンス）にもとづく自己評価・点検を進めている。
- 5) 各学校園とも教職員の一体化が図られ、チームとして取り組む姿勢が見えてきていることや、いくつかの学校園でそれらの課題に迅速に取り組んでいることは、高く評価できるものである。

しかし、十分とは言えないものもあり、さらなる改善を要するところがある。たとえば、新採用教員の面談において明らかになった、各教科の研究室にそれぞれの教員が位置付くことによって、教職員の意思疎通の場が少なくなっていることが挙げられ

る。このことについては、職員室の活用が必要ではないか、附属間の教員の交流もあってもよいのではないかと、研究の充実は感じているが、科学研究費の申請、各教員の研究サポートがほしい、などの声も示されている。

また、下記の点は多くの学校園に見られるもので、改善を要する点である。その一方で、それぞれの学校園の改革・改善に関して、他校園においても参考になると判断できる取り組みもあり、それらは附属学校園間で積極的に共有し、活用することが求められる。

II 各学校園にさらなる改善を願う点

1：校長・副校長による学校経営方針の明示，校長・副校長のリーダーシップの発揮

- ①学校経営・教育方針が明らかにされていても、学校要覧など学校経営や教育を紹介するものに反映されていないところが見うけられる。これを明示するとともに、その着実な実行と評価を進めていただきたい。
- ②校園長・副校園長の発揮すべきリーダーシップに不十分なところも見られる。校園長・副校園長のリーダーシップのもとに学校経営を進める体制づくりを確立し、日々の教育・研究活動の推進を行っていただきたい。

2：学校教育目標や学校教育方針などにおける現代的教育課題の取組

- ①学校教育目標や学校教育方針は各学校園が自らの教育の方向性を示すものであり、社会的責任として、HPなどに提示するとともに、関係者に理解しやすく、わかりやすいものにしていただきたい。
- ②学校教育目標や学校教育方針は、広島大学が目指す方向性として大学全体として取り組んでいるグローバル化、情報化などの現代の教育課題に、各学校園で取り組もうとしているものであるが、21世紀を担う子どもたちを育てる教育を進めるという観点から、各学校園の構成員や関係者に理解され、遂行されるように、さらなる取り組みをしていただきたい。

3：特色ある学校づくり

①教育と研究の充実と結合の必要性

各学校園はこれまでの研究の蓄積の上に立ち、外部資金にもとづく研究指定校（園）として、優れた教育、特徴のある研究を進められていることは高く評価したい。今後も継続して行い、学校教育の推進校として自覚し、地域・日本のモデル校となっていきたい。その際、教育と研究を相互に結びつけ、これら二つが相乗効果をもたらし、それぞれの学校園の教育全体の進展、また特色となるように努めていただきたい。

②各学校園の個性と特色

11 学校園がそれぞれ、個性と特徴のある教育と研究を進めることが望ましいことである。それぞれが独自性を発揮して特色ある学校園づくりを進めていただきたい。

たとえば、研究会の時期が重なったり、類似のテーマになったりしないように、観点を明確に打ち出すように配慮して、各々の学校園の特色が出るようにしてい

ただきたい。

4：子どもたちの実態に即し，教育成長を促すカリキュラム設計とその評価，改善の遂行

①学校カリキュラムの設計と実施

学校園のカリキュラムこそ，計画設計段階における，各学校園の学校経営，教育方針を実現させるものである。特定の研究の推進だけではなく，学校園のカリキュラム計画に融合させ，教科・領域の指導と結び付け，系統性をもたせ，独自で特徴のあるカリキュラムを設計・実施・達成するとともに，その検証・評価をすることによって，改善を行っていただきたい。

②学校園，子ども，地域実態に適したカリキュラム設計・作成とその評価・点検の実施，改善

各学校園のカリキュラム設計は，これまでの教育と研究の実績の上に，各学校園，子どもたち，取り巻く地域社会の実態に即するとともに，子どもたちの成長を促進するものにしていただきたい。また，カリキュラム，指導計画とともに，保護者，子どもたちからの評価などの評価計画を作成・実施し，適切な方法で教育研究活動の妥当性を確認し，その改善をお願いしたい。

③教育課程に「道徳」が位置付けられていながら，道徳教育の全体計画や道徳の時間の年間指導計画が不十分な附属学校が見うけられる。各教科等(教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動・外国語活動<小>)の年間指導計画，あるいはシラバスなどの充実を図り，指導目標・内容・方法を各学校で確認・共有し，実施していただきたい。

5：教職員集団のチームとしての組織化

①教職員一人一人は優れているが，一人一人が個別に行動し，教職員がまとまって力を発揮することの難しい学校園も見られる。校園長以下，教職員すべてが，学校園の経営方針や教育理念を共有し，チームとなって，各学校園の教育と研究に取り組み，学校園として力が十分に発揮できるように，組織化していただきたい。

6：人事とその交流の円滑化

①いくつかの学校園では教職員の人事交流が頻繁なために，在職期間が短く，長期的展望をもって教育を行うことが難しい現状にある。大学採用と交流人事のバランスを図るとともに，各教育委員会との人事交流に関しては，担当の理事，副理事等と連携を密にし，円滑で，計画的なものにしていただきたい。

②教職員の構成に関しては，学校経営方針，また教育・研究からの面からも，年齢構成などに配慮し，様々な面でバランスのとれたものにしていただきたい。

7：施設・設備

①いくつかの学校園では，校（園）舎が老朽化し，安全面から施設や設備の改善を要するところがある。附属学校支援グループ，大学本部など関連部署に，速やかに改善の要求を行い，改善を図っていただきたい。

②とくに，古くなり傷んだり腐食したりしている校舎，施設，設備には十分な安全策を講じて，子どもたちに怪我などないように万全の配慮と注意をしていただき

たい。

8：地域社会との関係

- ①各学校園は、保護者、教職員や子どもたちとともに、保護者、地域社会の関係者にも支えられているので、保護者、地域社会にもその教育や研究が理解されるように今後も努力していただきたい。

9：上級学校（進学）との関係

- ①いずれの学校園においても上級学校への進学問題を抱えている。この問題は各学校園の経営・教育方針にしたがって、子どもたちや保護者にわかりやすく、納得の得られるような対応をしていただきたい。

10：財務状況

- ①各学校園ともに、予算の厳しい削減状況に直面している。この状況は当面続くと考えられるので、予算の見直し、総枠内での組み換えなど、さらなる削減努力をしていただきたい。
- ②いくつかの学校園では削減策として、消費電力の明示化、ポスター、シールなどによって節減意識の徹底を図ったり、重点配分による効果・成果の増大を狙ったりしていることは、参考にしていきたい。
- ③各学校園・教員の研究費予算を増額するために科学研究費、研究開発指定校等の外部資金を積極的に獲得し、少しでも財政状況にプラスになるようにしていただきたい。また、校園長・副校園長においては、すべての教員が科学研究費（奨励研究）に応募・申請するように、研究テーマの設定、申請書の書き方などをサポートするとともに、促進していただきたい。
- ④各学校園のいろいろなシステムの共有化による相互利用を促進するとともに、業務の簡便化、負担軽減を進めてほしい。

Ⅲ 大学本部・理事・副理事・附属学校支援グループに改善を願う点

1：附属学校園への配慮

- ①附属学校園は、就学前教育・初等教育・中等教育をすすめるものであり、高等教育よりも一段高い配慮を必要としている。この点に関する配慮を十分にしていきたい。
- ②附属学校園は、附属学校園としての使命を果たすべく、大学教育の一環としての機能とともに、それぞれ独自の役割を進めている。各学校園の役割と機能を理解し、それぞれの学校園が特色ある学校園づくりが可能な環境整備と支援を進めていきたい
- ③とくに、学校園においては校舎、施設・設備の老朽化が進んでおり、園児・児童・生徒の安全面を脅かす事態になりかねない。各学校園からの施設・設備の改善には、速やかに対応してほしい。
- ④新採用教員の教育実習の合同事前説明会など、新採用教員へのケアが今年度なされたことは、適切であった。新採用教員の面談を通して、共通する課題が明らかになったこととして、1)各附属教員間の交流、2)研究科との交流・サポート、

3) 科学研究費の申請など、外部資金獲得へのサポートなどを進めていただきたい。

2：予算措置の充実

各学校園の校舎・施設・設備の改善のため、また教育・研究の促進のために、各学校園への予算を大幅に増額し、子どもたちが安全で安心して教育を受けることができる状態にするとともに、設備の充実を図っていただきたい。

3：人事交流問題への支援

各学校園の人事は全体に、教育委員会との交流、附属学校園間の交流が促進されている。大学の理事や副理事は教育委員会と話し合い、お互いがメリットになるように、支援していただきたい。

4：各学部・研究科へ要望

教育学部・教育学研究科をはじめ、各学部・研究科は教育実習を中心にして、これまでも各学校園と密接な関係があり、いくつかの学部と研究科は各学校園の教育・研究活動に協力・支援をしていただいていた。これからもすべての学部・研究科に継続して協力と支援をしていただくとともに、それを強化し、相互の関係をより充実したものにしていきたい。

5：教育実習に関する関係部署における改善

1) 附属学校園の新任教員が円滑な教育実習指導を展開できるように、来年度も早い時期に新任教員対象の事前教育体制を構築し実施していただきたい。

2) 幼稚園教育実習においても、小学校、中・高等学校教育実習と同様、事前の観察実習などを導入していただきたい。

IV 総括提言の公開について

平成26年2月開催の拡大校長会議にて委員長から校園長、副校園長に説明した後に公開する。ただし、「新採用教員の声」の部分については公開の対象外とする。

広島大学附属学校評価委員会

委員長 池野 範男 (教育学研究科教授)

副委員長 竹田 敏彦 (附属学校再編計画室長)

委員 古賀 一博 (教育学研究科教授)

同 中村 猛 (附属学校支援グループリーダー)

同 林 孝 (教育学研究科教授)

同 原 準一 (財務企画グループ専門員)

同 松浦 伸和 (副理事(附属学校担当)・教育学研究科教授)

同 三村 真弓 (教育学研究科教授)

同 若元 澄男 (比治山大学教授)